

戸矢研究室

応用人文学

人間・社会系部門

文化をめぐる人文と工学の研究グループ、複雑社会システム研究センター



応用人文学

社会・文化の次元を加えた新たな文理融合の推進（「文理実連携」）

文理融合の実践のためには、全体を俯瞰し、効果的なマッチングを考え、そして実践を進めていく、三段階のステップが必要になります。こうした、異分野を緩衝する中間地帯の設計こそ重要であると考え、文理の全領域を学ぶ東大EMP（エグゼクティブ・マネジメント・プログラム）修了生有志の実務家の協力を得て、広く文化・社会を念頭に置き、実務家も加えたあらたな文理融合のあり方を検討し、展開しています。

戸矢理衣奈准教授は歴史研究で学位を取得する、一方で10年超の実務経験を経て、EMPを修了後、東大に着任しました。「文理実」の現場で経験を活かし、有益かつダイナミックな領域横断と連携の実現に努めています。

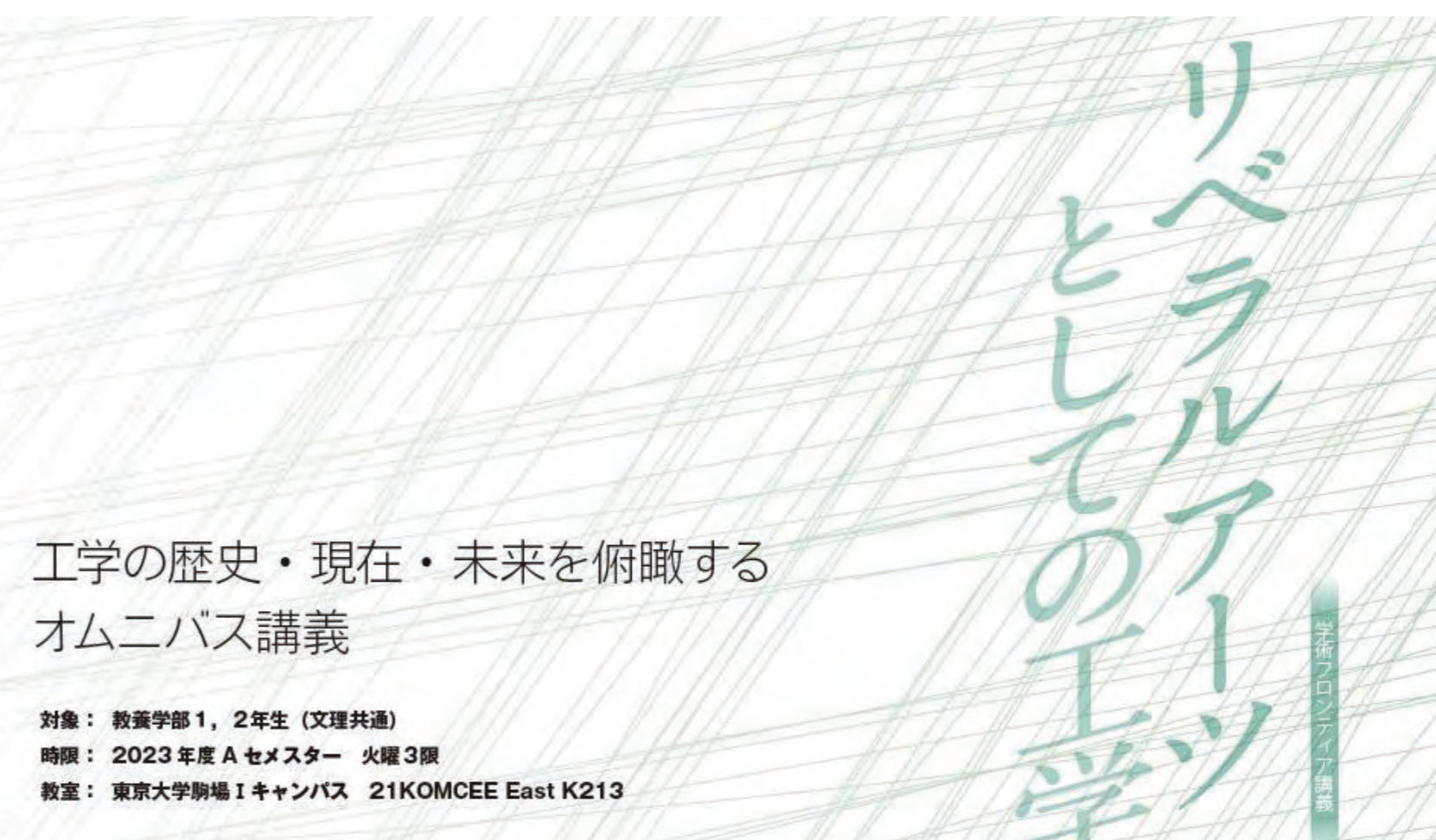
生研では2019年7月より「文化×工学研究会」を継続的に開催し、同会を契機に8名の教員による「文化をめぐる人文と工学の研究グループ」が発足しました。教養学部1-2年生(文理共通)に向けた生研教員によるオムニバス講義「リベラルアーツとしての工学」の開講（2025年度より大学院生も対象）、東大と金融庁における包括連携協定の締結、生研・先端研の共催による、指揮者の山田和樹氏をはじめとした日本を代表する音楽家を迎えての「駒Ⅱ音楽祭」の定期的な開催など、さまざまなプロジェクトが具体化しています。

歴史研究の工学・社会への応用

戸矢准教授の元々の専門である、「感性産業」の経営史について、継続的に研究を行っています。また横山禎徳氏（故人・元生研特別研究顧問）による「社会システムデザイン」の展開に関する活動を継続的にを行っています。

近未来ライフスタイルを想定した「デザイン」への応用

豊島ライフスタイル寄付研究部門(2018.10-2021.9)にて、近未来ライフスタイルを想定したうえで、生研に蓄積されたシーズを活かしたプロトタイプ（コンセプトモデル）の制作にチームとして取り組みました。この経験をもとに、文系出身の知見をデザインに活かします。



「文化×工学研究会」を学内教職員、院生およびEMP修了生にオープンな形で実施（左・現在はオンライン）。
「駒Ⅱ音楽祭」（中）、2023年度より開講している「リベラルアーツとしての工学」講義ポスター（右）